

災害から身を守る

雨がひどいときは…

早めの予防的避難を!

- 夜間や大雨時は、避難そのものが危険になります。大雨が予想される場合は、本格的に雨が降り出す前の、明るい時間帯での予防的避難を心がけましょう!

避難するときの注意点

- 1 安全で動きやすい服装
※長靴は水が溜まると動きにくくなるので厳禁!
- 2 足元に注意
※歩行可能な水深は、一般的に大人男性70cm、女性50cmとされています。流れが速い場合は非常に危険です。
※マンホール、側溝などに注意しましょう。
- 3 隣近所で声をかけ合って避難
- 4 病人や高齢者は背負って避難
- 5 子供は大人が手をつないだり、ライフジャケットなどを付ける

避難が危険な場合は

- 建物の2階など、できるだけ安全なところに避難しましょう。

早めの予防的避難でひと安心



DANGER! 台風時など、雨風が強い中での以下の行動は大変危険です。絶対にやめましょう!

- 田畑の様子を見に行く
- 屋根に上って作業する
- 川や海の様子を見に行く

土砂災害

日頃の備えと早めの避難

- 日頃から、がけから離れた部屋や2階で過ごすことが重要です。
- 気象情報をテレビ・ラジオ・インターネット等で収集しましょう。
- 土砂災害危険度情報をインターネットで確認しましょう。
- 市町村が作成しているハザードマップを確認し、自分の家が土砂災害の危険箇所にあるかどうかを確認しましょう。
- 避難場所や避難経路を確認しましょう。
- 明るい時間帯のうちに、親類、友人宅、避難所など安全な場所への早めの予防的避難を行いましょ。



深夜の集中豪雨などにより、外に出て避難ができない緊急時には

● 自宅内の2階または山側(斜面)の反対へ避難

自宅内の安全な場所への緊急避難

土砂災害の危険箇所を確認

- 熊本地震により、地盤が緩んでいます。「土砂災害情報マップ」では、大雨などにより土砂災害が発生する可能性がある地域について公表しています。

熊本県 土砂災害情報マップ

検索

迷わず避難…

危険を感じたら、大雨警報、土砂災害警戒情報、避難勧告が出る前に

- 土砂災害警戒情報とは、土砂災害の危険性が高まったとき、熊本地方気象台と熊本県が共同で発表するものです。

迷わず避難! すぐに避難!

竜巻・落雷

竜巻が間近に迫ったら…

頑丈な建物の中へ避難します

- 避難するときは屋根瓦などの飛来物に注意しましょう。



室内では頑丈な机の下に入り身を低くします

- 家の中心部に近い、窓のない部屋に移動しましょう。
- 窓、雨戸を閉め、カーテンを閉めましょう。
- 窓ガラスには絶対近づかないこと。



避難できない場合は、物陰やくぼみに身をふせましょう

- 車庫・物置・プレハブ・木の下への避難は大変危険ですので絶対にやめましょう。



DANGER! 雨宿りで木の下に入るのは危険です

雷から身を守るには…

雷鳴が聞こえたらすぐ避難

- 雷鳴が遠くても、雷雲はすぐに近づいてきます。
- 屋外にいたら、安全な場所に避難しましょう。



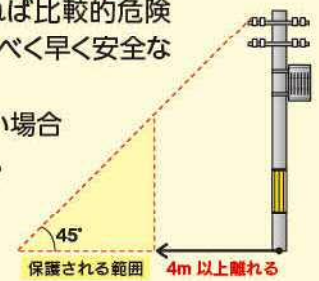
建物の中や自動車へ避難

- 建物や屋根付きの乗り物(自動車など)へ避難しましょう。



木や電柱から4m以上離れる

- 木や電柱からは4m以上離れてください。
- 右の三角の範囲内であれば比較的危険性は低くなりますが、なるべく早く安全な場所に避難しましょう。
- 近くに避難する場所がない場合には姿勢を低くしましょう。



地域

自主防災組織とは

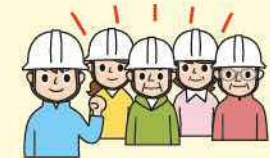
- 下の表は、阪神・淡路大震災のときに、生き埋めになったり閉じ込められた人が誰に救助されたかを示したものです。およそ9割の方が自力・家族(自助)、もしくは、近所の人などの助け合い(共助)で助かっています。
- 大規模な災害になればなるほど、消防・警察・自衛隊をはじめとした公的機関などによる救助(公助)には限界があります。このため、災害から命を守るためには、『自助』『共助』が極めて重要になります。
- 自主防災組織とは、「自分たちの地域は自分たちで守る」ことを目的に、結成された組織をいいます。少しでも災害の被害者を減らせるよう、それぞれの地域で結成しておく必要があります。

【生き埋めや閉じ込められた際の救助】

救助者	割合
自力	34.9%
家族	31.9%
友人・隣人	28.1%
その他	0.9%
救助隊	1.7%
その他	0.9%

自助：共助：公助 = 7：2：1

兵庫県地震対策における火災に関する調査報告書(日本火災学会)



自主防災組織の活動

- まず、地域の危険箇所を確認し、どのような災害が起こりそうかを予測し、災害が起きた際には、誰がどうい役割を行うのかなどについて、具体的に決めておく必要があります。
- また、継続して活動することが大事なので、どうすれば多くの住民が負担を感じることなく参加できるかを考え、活動計画を立てることが重要です。

自主防災組織の主な活動

- 平常時**
- 地域で防災について学ぶ
 - 地域の災害危険箇所の確認
 - 避難訓練 など
- 災害時**
- 地域住民の安否確認
 - 被災者の救出や応急手当
 - 避難所への避難誘導
 - 炊き出し など

